

＝平成30年度早川南小学校だより＝

はるき



平成30年7月12日

No.17

校長 坂野 修一

忘れてはいけない七夕の戦火



先週6日(金)に行く予定でした七夕集会は、県道通行止めによる臨時休校の為、で9日(月)に延期され実施しました。笹の葉はだいぶ緑を失い元気がないのですが、願い事が書かれた笹だけにサッサと片付けるわけにもいかず、明日の授業参観時まで飾ってあります。一人が2枚の短冊に、思い思いの願い事を書きました。他人が書いた願い事をジロジロ見ることは好ましくないとわかっていながらも、校長という立場上見える範囲で見たとこ、重なる願い事を見つけました。それが、「**世界が平和でありますように**」です。そこで、七夕の日にあった甲府の悲しい出来事を書きます。

七夕飾りは、一夜飾りが基本といわれています。つまり、七夕の前日6日の夕方から夜にかけて飾ります。そして、7日中に片付けるものといわれています。(°Д°;) 今から73年前の7月6日の深夜から7日にかけて、短冊に願いを込め軒先に飾った平和な甲府の家々を襲う「甲府空襲」が起きました。別名、「たなばた空襲」とも呼ばれています。当時、甲府市は東京からの疎開した子どもたちが多く、遠く離れた両親や家族との再会を短冊に書いた子どもたちが多かったはずですが、子どもたちのその願い事は、無残にも打ち砕かれたのです。

この空襲で、死者は1,127名、負傷者1,239名を数え、被害戸数18,094戸となりました。焼夷弾により市内をなめ尽くした猛火は一晩燃えつづけ、朝になってもくすぶり続けていたそうです。黒い塀と白壁の土蔵が立ち並んでいた城下町の風景はあとかたもなく焼け落ち、焦土の中に焼けただれた6階建ての松林軒が残っているだけで、他は見渡す限り焼け野原、至る所に死体が転がっていたとのことでした。



8月6日の広島、9日の長崎原爆投下、そして15日の終戦記念日。8月の声を聞くと、あの忌まわしい太平洋戦争の話が多くなります。区切りの良い年ならなおさらでしょう。戦後73年、戦争を体験した世代がだんだんと少なくなり、いずれは戦争を体験していない世代だけになってきます。決して風化させてはいけませんし、さらには、山梨県であった甲府空襲(大月空襲・吉田空襲もありました)を、山梨県民に伝え残していかなければなりません。

毎年七夕の季節が来るたびに、甲府空襲を思い出す方々が今なおたくさんいます。私も、亡き祖父や祖母や父、そして80過ぎ健在の母から教えてもらった甲府空襲のことを、後世に伝えていこうと毎年思っています。そして、いつまでも平和な日本、平和な世界であることを願い、自分ができることをしようと思えます。

合掌

七夕集会の様子が学校HP「学校行事」にUPされています。是非ご覧下さい。また、1学期の諸行事の様子は、玄関ホールのパネル裏に掲示してあります。PTA学校委員会・給食試食会&説明会・授業参観・懇談会と盛りだくさんな一日ですが、明日のご来校をお待ちしております。